

《研究課題名》

間質性肺炎合併肺癌における術後急性増悪因子としての好中球/リンパ球比の意義

《研究対象者》

2012年1月1日から2023年12月31日の期間中に滋賀医科大学附属病院呼吸器外科で、非小細胞肺癌に対して手術を受けた方

《研究協力をお願い》

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記(8)の問い合わせ先へご連絡ください。

(1) 研究の概要について

《研究課題名》 間質性肺炎合併肺癌における術後急性増悪因子としての好中球/リンパ球比の意義

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2026年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 呼吸器外科 片岡 瑛子

(2) 研究の意義、目的について

肺癌の患者さんの中には、間質性肺炎を合併している人がいます。間質性肺炎は、なんらかの原因で肺に慢性的な炎症が起き、線維化といって、肺の組織がかたくなっていく病気です。この間質性肺炎を合併している肺癌の患者さんにおいて、手術後に間質性肺炎の症状が急速に悪化する「急性増悪」を発症する人がいます。間質性肺炎の治療として、ステロイドホルモン剤や抗線維化剤などがありますが、急性増悪の場合には、これらの治療に対して効果がない場合が多く、回復が難しく亡くなられる方もいらっしゃいます。

手術後に何が原因で急性増悪が起きるのかは、まだよくわかっていません。私たちは、間質性肺炎を合併している肺癌に対して手術を受けた患者さんに対して、手術後の急性増悪の要因を探すことを試んでいます。この研究では、炎症の指標として用いられている好中球/リンパ球比が、肺癌に対して手術を受けた患者さんにおいて、手術後の間質性肺炎の急性増悪を予測する因子となり得るかを調査します。

(3) 研究の方法について

《研究の内容》

診療や手術を記録したカルテから、患者さんの肺癌の状態、間質性肺炎の状態、血液や

呼吸機能の検査値、CT画像、治療経過に関するデータを集めます。間質性肺炎を併存している患者さんで、血液の好中球/リンパ球比が上昇し、術後急性増悪と関連性があるのかを調べます。

《利用する試料・情報の項目》

情報：臨床データ（年齢、性別、肺がんの状態、間質性肺炎やその他の併存疾患の状態、血液や呼吸機能の検査値、CT画像、治療経過）

《試料・情報の管理について責任を有する者》

国立大学法人 滋賀医科大学 学長 上本 伸二

（４）個人情報の取扱いについて

本研究を実施する際には、個人を特定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして、ご提供いただいた情報が誰のものか分からない状態にして使用します。ただし、必要な場合に個人を特定できるように、対象となる方とその方の情報を結び付けることができる対応表を作成いたしますが、この対応表は施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

（５）研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

（６）研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記（８）の問い合わせ先へご連絡ください。

（７）利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の情報を本研究に利用（又は他の研究に提供）することについて停止することができます。停止を求められる場合には、下記（８）にご連絡ください。

（８）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 呼吸器外科 片岡 瑛子

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2244

メールアドレス：hqsurg2@belle.shiga-med.ac.jp